

# Universe for Surround

Composer: Yohichi Tsuchiya

Performer: Armeria Strings Quartet etc.



## アルバムコンセプト

限られた音色と音の数で作曲者と演奏者たちが向かい合って話し合いながら形作られた弦楽カルテットの互いに響き合う音楽的宇宙、多彩な音色と音の数を使う作曲家が夢に描いた架空のオーケストラによる内なる音楽的宇宙、様々なライフスタイルの中で聴くことができるダイナミクスレンジの大小、響きに包まれる心地よさと、楽器が放つ音そのものに相対する厳しさ、抽象と具象、多くの重なり合いつつ相反する二重の対比によりこのアルバムは成り立っています。

1. E	3'19"	タイトルのEはemotion、e-moll、energy、exclamationから。呼び合う2つのメロディ、第一ヴァイオリンと第二ヴァイオリンを対等に扱い、向かい合う対向配置を想定して作曲。
2. Expectation ～期待～	3'29"	ほのかな期待、ワクワクした期待、心浮き立つピッチカート。この一連の弦楽カルテットの曲は演奏者が円型に配置される。それは奏者同士が円になって顔を向け合いコンタクトを取りやすくするカルテット練習の日常風景をヒントに。
3. Five	1'42"	タイトルは5拍子、サラウンドの五つのスピーカーから。クラシックの古典派の音楽は4度の響きを不協和ととらえ3度の響きに解決させようとする。この音楽は逆で4度を基本の音程とし3度の音程を4度の音程に解決させている。
4. Ame Onna ～雨女～	3'51"	オーディオドラマ「雨女」の為に書かれたピアノ曲の弦楽四重奏アレンジ、亡くなった夫を求めてさまよう雨の日に現れる女の幽霊の物語。梅雨の夜の空気感と女の情念をイメージして響きは超ウェット。
5. Hotarubi ～ほたる火～	2'17"	サラウンドオーディオドラマ「ほたる火」の為に書かれたヴァイオリンとピアノのための曲を弦楽四重奏アレンジ、ほたる火につつまれ祝福された若い男女の恋と目覚めの物語より。
6. Last Song	2'50"	最後まで曲名が思いつかず、スタジオ録音の最後に録音したためタイトル名は「Last Song」に、音響ハウス大竹 悠太さん命名。ベートーヴェンが好んだとされる「運命」のハ短調です。
7. Slow Hug	2'54"	優しい抱擁。こちらも第一ヴァイオリンと第二ヴァイオリンが向かい合う対向配置を想定して作曲された、通常より離された2人のヴァイオリン奏者はお互いの音をより聴き合い、お互いの音をより聴かせようと音を飛ばし合う。
8. Sonata	7'55"	10年ほど前、通算三曲目に書いたピアノソナタ第二番の弦楽四重奏アレンジ。副題は、Tactus（ラテン語で触覚）。若き爆発というところでしょうか、たぎっています。
9. Path in Winter ～冬の小道～	4'05"	Symphonic Suite の Path In Winter より弦楽カルテットアレンジ。センター試験のとき雪が降っていた時の記憶。一歩一歩、歩きながら変わりゆく情景、ふと立ち止まり白い息を吐ぐ。そしてまた歩みを始める。
10. Symphonic Suite for Surround Sound より 1) Prelude	2'01"	前奏曲、前触れ、前兆。一つのメロディを複数の楽器で交互に演奏するホケトゥスをヒントに一つのメロディを5つの木管楽器で分かち合った。空間に飛び交うメロディを弦楽器群と金管楽器群のハーモニーで支える。
11. Symphonic Suite for Surround Sound より 2) Cori Spezzati Nova	3'42"	コーリ・スペツツァーティという400年以上も前にあったヴェネチア楽派の「空間的に離れた位置にある複数の合唱隊が、交互に歌い継ぐ作曲技法」をヒントに作曲およびミックスされた音楽。Novaは天文学における新星や新しさという意味。
12. Symphonic Suite for Surround Sound より 3) Path in Winter	3'45"	しんしんと雪ふる冬の小道を白い息を吐きながら、頭の中を流れる旋律と歌声。なお Symphonic Suite for Surround Sound のオーケストラ編曲版は東京芸術大学作曲科卒業作品として発表。

このアルバムを、私は繰り返し聴いている。回を重ねるごとに弦楽四重奏によるサラウンドの響きが身体に深く染み込んでくる。サラウンドといっても、音が飛び交ったり激しく移動したり、そんな派手な演出とは無縁の世界。繊細で透けるような響きが空間に漂い、さまざまな表情で聴き手に語りかけてくる。土屋洋一さんの創り出す旋律はとても感受性が豊かで、それらを巧みに絡み合わせながら光と陰影を描き出していく。その様は、さながら映像のないドラマを音楽で展開しているかのようだ。

4本の楽器が互いに旋律という台詞を交わしながら、重なり合ってハーモニーという情景を描き出す。聴き手は、映像のないドラマに触発され、思い浮かんだ自分だけのシーンを心のスクリーンに投影していく。「雨女」「ほたる火」……そんな印象的なタイトルに感性を刺激され、次々とイメージがふくらんでいく。さらに弦楽四重奏より量感の増した弦楽合奏に管楽器が加わって、情景は多彩な変化を見せていく。96kHz/24ビット/5.0chで録音された音楽の表現力は、2chステレオの比ではない。弦楽器の響きが消え入る瞬間まで聴きとれる。そのゾクッとする感動は、ハイレゾ&サラウンドならではのもの。

土屋さんはサラウンドで録音され、聴かれることを前提にして曲を作っている。このような音楽作法はきわめて希だと言えるかもしれない。しかし、生の音楽はそもそもサラウンドなのだ。もうずいぶん前のことになるが、私が初めてプラハを訪れた折りに、プラハ城のスペイン・ホールで名ヴァイオリニスト、ヨセフ・スクークが率いる室内楽団のコンサートを聴く機会があった。このホールの豪華さは有名だが、それ以上に響きの豊かさに感動させられた。スクークがヴァイオリンを奏でると、その音色がホールの空間を心地よく響かせ、それが弾き手に戻っていく。スクークはその響きを聴きながら次のフレーズを奏でていく。ああ、彼は響きと対話しながら弾いているんだ。

響きとの対話。それは音楽の根源的な要素だと思う。ヨーロッパのカテーテラルでオルガンやコーラスを聴いたことがある人なら、その意味はすぐにも理解してもらえるだろう。たとえば音楽では楽譜の存在が欠かせないが、楽譜はあくまで2次元で表記された記号の集合体。少し論理が飛躍するが、2次元の楽譜には3次元で表現されるべき要素が組み込まれているはずなのだ。

そう考えるなら、音楽の録音や再生でサラウンドはもっと重視されていい。半世紀以上にわたってスタンダードとされてきた「モノラル&ステレオ」という既成概念に、私たちは慣れすぎてしまってはいないだろうか。楽器の配置やマイクロフォンの位置を周到にデザインしたサラウンドの表現力には計り知れないものがある。その領域に足を踏み入れ、未知の世界を探索する土屋洋一という若く鋭敏な才能にエールを贈りたい。



Mick Sawaguchi  
(有)沢口音楽工房 代表



土屋 洋一 (Yohichi Tsuchiya)  
Composer, Musician

東京、渋谷に生まれる。20歳よりピアノを、その後作曲を始める。2011年東京芸術大学作曲科を卒業、作曲を故 北村昭、近藤謙、山本裕之、照屋正樹、山本純ノ介らに師事。サウンドデザインを沢口真生、録音を亀川徹、DAWとエンジニアリングを江夏正晃に学ぶ。

130th AES Convention London Recording Competition、Modern Multi-track Studio Recording 部門 JAPAN student section  
より "Prelude 5.1" (5.1ch) がエントリー。  
>>頁末に続く

## Q&A：音楽での立体音場とは？

Q1：なぜ普通の作曲者は前方重視で作曲するのか？では、土屋はどうしたのか？

A1：100年近くに渡るステレオ、モノラルの録音物による刷り込みとその影響によるライブ、コンサートが考えられる。あと、多くの作曲者はリスナーの視聴環境を考えて出来るだけたくさんの人に聴いてもらえるメディアを選び、便利さや仕事の便宜上と慣習に従っているため、多くの作曲者は皆そこから逃れられない。

自分としては過去の様々な音楽体験から聴いたことの無いものを聴き新鮮な気分になりたいという思いがあり、作曲をすることは自分が一番最初のリスナーになることと考えていて、今、世界的に見てほとんどなされていない立体的な作曲を行うことは最初の聴き手としても非常に面白いと感じている。自発的に作曲しているものはほぼ立体的な曲で、あたりまえのように作曲しています。

Q2：立体的な作曲はどんな意味があるのか？

A2：立体的な作曲は現在ほとんど忘れ去られているが過去無数に存在するあたりまえのもの。気づいていないだけで生演奏の音楽は立体的なもの、わかりやすい例を挙げれば輪になり歌いあつたり楽器を弾いて聴き合えばそこに立体的な音楽ができる。

僕にとっての立体的な作曲は今、人が刷り込みと思い込みによって忘れ去られていたものを思い返す行為。「僕らの耳は本当に聴こえている？」

Q3：それを聴くとどんなことがおきるのか？

A3：僕自身は聴いたことがない音楽体験をすると想定していますが、どんな風に聴いても、何を音楽に投影してもいい、聴き手に委ねます。

あとサラウンドの視聴方法ですが生活環境に応じて、映画館やスタジオのようにスピーカーを取り囲んで配置したり、スピーカーを Ls, L, C, R, Rs と横並びに配置したり、サラウンドスピーカーの円を極限まで縮めて狭いスペースに配置し外側からささやかな音で楽しんでも、2ch ステレオから 5ch サラウンドとチャンネル数が増えることにより圧倒的に情報量が増し音源の持つ本来の力がより体験できると思います。

Q4：富田勲から以降なぜ立体的な作曲家がでないのか？

A4：富田勲は 100 年に一度出るか出ないかの作曲家、他の普通の作曲家に求めるのは酷。答え 1 も参照。

Q5：現代音楽や宗教音楽では効果がないのか？

A5：現代音楽や宗教音楽においても立体音場の素晴らしい作品はたくさんありますが、芸術音楽は歴史の流れや文脈を学ばないと理解が出来ない部分が多いので、広く一般に理解されるのはかなり困難な面があります。

とは云え「音楽性=人格そのもの」で音楽性の押しつけや否定はあまり幸せでない結果を招くため他の分野への言及は避けます。皆好きなことをやればいい、興味が無ければ通り過ぎればいいと思っています。

>>続き

"Cori Spezzati Nova" (5.1ch) が 131st AES Convention New York の Recording Critiques にてイーグルス、エアロスマス、スティーリー・ダンなど多くの著名アーティストのミキシングや音楽プロデューサーとしても知られる Elliot Scheiner により称賛を受け、数々のグラミー賞ノミネートアルバムを世に送り出している 2L レベルの Morten Lindberg をして「聴いたことの無い音楽を聴いた」と言わしめた、翌年 5.1ch 楽曲制作コンテストに入賞 (DTM MAGAZINE 2012 年 06 月号の付属 DVD に収録) などをはじめ現在多岐に渡る作編曲活動のかたわら、サラウンドによる作曲を行い、マルチチャンネル、多群アンサンブル、バイノーラルによる音楽制作と理論研究や、後進の指導も行っている。

## アルメリア弦楽四重奏団

様々なフィールドで活躍する4人の若手演奏家によって2011年結成。  
2011年ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門に於いて第3位受賞。  
サロンコンサート、レコーディング等様々な場所で演奏活動している。

### 前原千里 (Chisato Maehara) / Violin



1998、1999年全日本学生音楽コンクール「中学生の部」入選、2001～2003年草津夏期国際音楽アカデミーに於いて、S・ガブリロフ氏、W・ヒンク氏に師事、受講生コンサート出演・御前演奏を行う。日本演奏家コンクール大学の部特別賞、2007年ウイーンマスターコースに於いてC・アルテンブルガー氏に師事。

藝大チェンバーオーケストラ演奏会に出演、第35回藝大定期室内楽に選ばれ出演。第30回草津夏期国際音楽祭フェスティバルオーケストラに出演、2010年東京藝術大学オーケストラの一員として中国西安市に演奏旅行、浦川宣也氏率いる「東京クラシックプレーヤーズ」で演奏会出演、CD録音を行う。

現在、都内、地方プロオーケストラで演奏する他、各種コンサートに出演、後進の指導にもあたっている。これまでに梶山久美、浦川宣也、松原勝也の各氏に師事。2009年東京藝術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。

### 竹田詩織 (Shiori Takeda) / Violin



全日本学生音楽コンクール「高校の部」第2位、京都芸術祭「世界に翔く若き音楽家の集い」に於いて京都市長賞、日本演奏家コンクール大学の部特別賞、横浜国際音楽コンクール大学の部第2位、N響監修鳥取県クラシックアーティスト・オーディション最優秀賞、他様々なコンクールに入賞。2009年東京藝術大学シンフォニー・オーケストラの一員としてドイツ・ベルリンにて「第10回ヤングユーロクラシック音楽祭」、ドイツ・シュタットハレ・コングレスザール(カッセル)にて「北部ヘッセン芸術の夏」に参加。澤和樹氏率いる「東京弦楽合奏団」演奏旅行、浦川宣也氏率いる「東京クラシックプレーヤーズ」演奏会・CD録音に参加。室内楽に於いては東京藝術大学在学中、第36回藝大定期室内楽(木曜コンサート)、2010年JTアートホールアフィニス「Vol.271 期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」のそれぞれに推薦され出演。東京藝術大学学生オーケストラ定期演奏会、第1回音楽大学オーケストラ・フェスティバル等様々な演奏会に於いてコンサートミストレスを勤める。

これまでソリスト、室内楽奏者として多数の演奏会に出演する他、国内著名アーティスト楽曲、CM、ドラマ、映画音楽レコーディング・ライブにも多数参加、自身がリーダーを務めるストリングスでも様々な作品レコーディングに参加するなど、幅広く演奏活動を行っている。永見信久、田淵洋子、澤和樹、原田幸一郎、漆原朝子の各氏に師事。2010年東京藝術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。

2012年9月より東京交響楽団第二ヴァイオリン奏者。

### 多井千洋 (Chihiro Tai) / Viola



2010年、大阪国際コンクール入賞、第21回レ・スプレンデル音楽コンクール室内楽部門一位等、受賞。2010、2012年と東京藝術大学オーケストラの一員として中国は西安、北京に演奏旅行。

草津夏期国際音楽アカデミーにて、G. フューリンガー氏に、ドイツ・バーデンバーデン音楽アカデミーにてH. ローデ氏に師事。2010年、ヴィオラスペース名古屋公演にて今井信子氏と室内楽で共演。2008、9、10、12年に JTアートホールアフィニス「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」出演。

オーケストラのみならず、室内楽、現代音楽の初演等にも多く携わっている。

これまでにヴァイオリンを杉山笙子、故・東儀幸に、ヴィオラを竹内晴夫、クロード・ルローン、百武由紀、川崎和憲、古楽を桐山建志に師事。

愛知県立芸術大学、東京藝術大学大学院修士課程を経て、現在、京都市交響楽団員。

### 越川和音 (Kazune Koshikawa) / Cello



2002年第12回日本クラシック音楽コンクール全国大会第3位(最高位)。2003年第8回KOBE国際学生音楽コンクール優秀賞。2007年草津夏期国際音楽アカデミーに於いて選抜され、御前演奏を行う。2009年第17回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール大学院・研究生の部第3位、第3回横浜国際音楽コンクール弦楽器部門一般の部第1位、第41回TIAA全日本クラシック音楽コンサート審査員賞。同年夏には、東京藝術大学シンフォニー・オーケストラの一員としてドイツ・ベルリンにて「第10回ヤングユーロクラシック音楽祭」、ドイツ・シュタットハレ・コングレスザール(カッセル)にて「北部ヘッセン芸術の夏」に参加。室内楽に於いては、在学中に結成したピアノカルテットの編成に於いて、JTアートホールアフィニスにて「Vol.271 期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」、「第35回藝大定期室内楽」、「第36回藝大定期室内楽(木曜コンサート)」それぞれに推薦され出演。

現在、在京ならびに地方プロオーケストラへの出演の他、国内著名アーティスト楽曲、ドラマ、アニメ、映画、CM、演劇、ゲーム音楽等の多数におけるレコーディング、ライブサポートなど幅広く活動している。これまでに野村幸夫、ルドヴィート・カンタ、大久保謙、上村昇、高田剛志、河野文昭、西谷牧人、上森祥平の各氏に師事。

東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、2011年同大学大学院音楽研究科修士課程修了。

## M10 Prelude 演奏メンバー



上田章代 (Akiyo Ueta) Flute

高松第一高等学校音楽科を経て東京芸術大学を卒業。在学時、校内選抜により、芸大室内楽定期に木管四重奏で出演。また、よんでん文化振興財団の奨学生に選ばれる。コンセール・ウ・イウ・アン新人オーディション優秀賞受賞。現在フリー奏者として、幅広く活動している。Ensemble Petite-clef、Ensemble Mejiro、フルートアンサンブル ザ・ステップ各グループメンバー。フルートを野口博司、神田寛明、竹澤栄祐、高木綾子、中川朋子の諸氏に師事。室内楽を守山光三、小畠善昭、寺本義明、川中子紀子の諸氏に師事。



佐藤 恵梨奈 (Erina Sato) Violin

5歳より桐朋学園付属子供のための音楽教室（仙台分室）に入室し、ヴァイオリンを始める。東京藝術大学付属音楽高等学校を経て、東京藝術大学卒業。

2000年、長野国際コンクール熱演賞。仙台ユースクラシックオーディション優秀賞受賞。モスクワコンセルヴァトワールインターナショナルセミナー、ウィーン国立音楽大学・徳島文理大学共同主催インターナショナルセミナーなどにて選抜修了コンサートに出演。モーツアルテウム音楽院主催ザルツブルク夏期国際アカデミーの推薦を受ける。国立劇場にて天皇皇后両陛下、御前演奏をオーケストラで行う。

2010年より東京文化会館、すみだトリフォニーホール、旧東京音楽学校奏楽堂、群馬県邑楽町こぶ観音仏殿などでソロリサイタルを開催。2011年より保育園・幼稚園・小学校での演奏会を行っている。

これまでに勅使河原真実、原田幸一郎、グレゴリー・フェイギン、玉井菜採、ジェラール・ブーレ、オレグ・クリサ、窪田茂夫、各氏に師事。

メディアでは、「音旅（おとたび）聴ままにクラシック」にレギュラー出演、

「TRICK 番外編 警部補矢部謙三2」カルテット役出演「ハートネットTV」等、東京ガールズコレクションのTBCのショーで弦楽オーケストラのコンサートミストレスを務める。その他、矢沢永吉、東京事変、AKB48、EXILE、ATSUSHI、清木場俊介、L'Arc-en-Ciel、堂本光一、関ジャニ∞、西野カナ、いきものがかり、JUJU、

JAY'ED、UVERworld、野口五郎、五月みどり、河村隆一、mihimaru GT、リュ・

シウォン、ORANGE RANGE、HY、カラーボトル、近藤晃央、井手綾香、中島美嘉などのツアー、ライブサポート、レコーディング、PVやテレビなど多数のアーティストと共に演。



竹田詩織 (Shiori Takeda) / Violin

全日本学生音楽コンクール「高校の部」第2位、京都芸術祭「世界に翔く若き音楽家の集い」に於いて京都市長賞、日本演奏家コンクール大学の部特別賞、横浜国際音楽コンクール大学の部第2位、N響監修鳥取県クラシックアーティスト・オーディション最優秀賞、他様々なコンクールに入賞。現在東京交響楽団第二ヴァイオリン奏者。



濱野 詩帆 (Shiho Hamano) Oboe

茨城県出身。4歳からピアノを、12歳からオーボエを始める。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、2010年東京藝術大学を卒業。

2003年クラシック音楽コンクール高校生の部にて入選。2010年、第36回東京藝術大学室内楽定期に参加。大学卒業後、渡独。モンベリアール音楽院に在籍。2012年よりスイス Doms 奨学金を授与。

2013年3月、ヘルムート・リリング氏指揮のもと、バッハアカデミーシュトゥットガルトのユンゲントオーケストラメンバーとして参加。

これまでにオーボエを、加古ふみこ、オット・ヴィンター、小畠善昭、クリスティアン・シュミットの各氏に、室内楽を四戸世紀、山本正治の各氏に師事。

現在、マンハイム音楽大学に在籍し、エマニュエル・アビュール氏に師事している。



原陽子 (Yoko Hara) Clarinet

大阪府出身。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学卒業。

2009年、東京芸大シンフォニーオーケストラの一員として、ベルリン公演に出演。第6回クラリネットアンサンブルコンクール第2位、ならびにザ・クラリネット賞受賞。第36回芸大室内楽定期出演。

2011年、第3回ドルチェ楽器デビューコンサートに出演。

これまでにクラリネットを藤井一男、廣野桃子、村井祐児、山本正治の各氏に、室内楽を四戸世紀、山本正治の各氏に師事。

現在、フリーのクラリネット奏者としてソロ・室内楽・オーケストラ等で活動中。水戸第三高等学校、吉祥女子中学・高等学校、クラリネット非常勤講師。



廣幡 敦子 (Atsuko Hirohata) Bassoon

岡山県出身。ファゴットを岡崎耕治、東口泰之の各氏に師事。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、青少年のためのオペラに参加。第37回芸大室内楽定期に出演。現在、東京藝術大学修士3年を在学中。2014年3月より広島交響楽団入団予定。



三村 総撤 (Sotetsu Mimura) Horn

埼玉県和光市出身。13歳からホルンを始める。埼玉県立芸術総合高等学校音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修了。第30回霧島国際音楽祭、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXに参加。これまでに須山芳博、守山光三、西條貴人、五十嵐勉、日高剛の各氏に師事。現在、日本センチュリー交響楽団に在籍中。



## RECORDING DATA

M-1~9

2012 10-14 ONKIO HAUS 1st

Rec/Mastering Engineer:Mick Sawaguchi(Mick Sound Lab)

Assistant Engineer:Yuta Otake(ONKIO HAUS)

Mix:Yohichi Tsuchiya

M-10

2009 8-17,18,31 TYA A-st

Rec Engineer:Yuta Toga, Hiromu Tanokura

Mix:Yohichi Tsuchiya

M-11/12

Studio-T/marimo RECORDS

Mix:Yohichi Tsuchiya

Special Thanks:Masaaki Enatsu(marimoRECORDS)

Produced by

沢口音楽工房 Mick Sawaguchi

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町 1-2-13 TEL:0422-53-8021 (office) / 0422-36-6252 (Unamas)

URL:<http://surroundterakoya.blogspot.com/> , <http://unamas-label.net/> , E-mail:mick-sawa@m.jcnnet.jp

Photo:Mick Sawaguchi, Design:Ivy planning Inc.

個人的に使用する場合を除き、著作権法上著作者の許可無くCDやその他記録メディアへのコピー、ネットワーク配信サイトやネットラジオ局等への配布は法律により禁じられています。

